月夜峠

水野葉舟

青空文庫

これも同じく遠野で聞いた談だ。その近傍の或海岸の村に住んでいる二人の漁夫が、或月夜に、近くの峠を越して、深い林の中を、二人談しながら、魚類の沢山入っている籠を肩にして、家の方へ帰って来ると、その途中で、ひょっこりとその一人の男の女房に出会った。その夫は女房に向って、「お前は、今頃何処へ行くのだ」と訊ねると、女房は、「急に用事が出来たから、△村まで行って来ます」と答えたが、傍で同伴の男が、見詰ていると、女はそういいながら、眼を異様に光らして、籠のあたりを、鼻先をぴくぴくさしている模様が、如何にも怪しいので、これはてっきり魔物だと悟ったから、突然その男は懐中にしていた、漁用の刃物を閃すが早いか、女に躍懸って、その胸の辺を、一突強く貫くと、女はキャッと一声叫ぶと、そのまま儘何処とも知らず駈出して姿が見えなくなった。夫は喫驚して、如何したのだとその男に詰ると男は頗る平然として、何これは魔物にちがいない、早く帰ろうといいながら、その男の袖を引張るようにして、帰途に就いたが、夫なる男の心配は一方ではない。急いで家に着くと、早速雨戸を開けて、女房の名を呼ぶと、はいといいながら寝惚眼をして、確に自分の女房が出て来たので、漸く安心して先刻あった談をすると、その女房も思当るような顔をしながら、不思議なこともあればあるものです、妾も先刻、松さんに殺された夢を見て、思わずキャッと叫ぶと、眼が覚めたのですと、いったので、その漁夫も、それを聞いて不思議に思ったから、翌朝になると早速に、前夜の同伴の男と一緒に、昨夜の場所に行ってみると、その処から少し離

れた叢（くさむら）の中に、古狐が一匹死んでいたとの事であった。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇　百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房
　2007（平成19）年7月10日第1刷発行
底本の親本：「怪談会」柏舎書楼
　1909（明治42）年発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2008年9月25日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

月夜峠

水野葉舟

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/